

農 学 部

＜農学部の理念と目標＞

＊理念

現在の農学分野においては、世界的規模で進む環境の変化や農業生産を取り巻く様々な情勢の変化を反映した教育・研究の必要性が増している。さらに、年々複雑化、多様化する農学分野における諸課題の解決にあたっては、個々の専門分野における教育・研究の深化のみならず、農学分野を広く横断する俯瞰的な視点に立った教育・研究が強く求められており、その実践を農学部の理念とする。

＊教育目標

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域を基軸として、各領域に関する教育・研究、さらには3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」教育を実践する。

＊研究目標

農学部は、独創的な国際レベルの学術研究、そして地域社会との連携による新分野の研究を追求する。具体的には以下の視点からの研究の推進と質的向上を目指す。

- 1) 持続可能な地域農林水産業と豊かな社会の形成に対する貢献
- 2) 地球規模の問題を視野に入れた課題の解決
- 3) 生物系産業の創出・発展への積極的な取り組み

＊社会貢献目標

農学部は、地域社会に存在する教育、研究ニーズを積極的に掘り起こし、学部教育・研究課題として受け止める一方、その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。この目標実現のためには、日常的に地域社会と農学部の交流を十全にし、その関係構築の土壌形成に努めることとする。

さらに、地域社会から国際社会へ教育研究の場を上げ、知的資産を還元し社会に貢献する。

＜教育目的＞

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域に関する教育に加えこれら3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」に関する教育の実践により、自身の専門分野に関して農学全体からの視点を持ち、身につけた知識・技術を他の分野に広く展開できる能力を持った次世代の農学人材の育成を教育目的とする。

＜各学科教育目的＞

食料農学科

食料農学科は、人々の生存の基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の養成を目的とする。

生命科学科

生命科学科は、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸、糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て、生命現象を分子レベルで理解することにより、地球環境問題の解決、種の多様性の保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材の養成を目的とする。

地域環境科学科

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGsへの対応を念頭に置いた教育を行い、未来の農林業を担う地域先導型人材の養成を目的とする。

動物科学・水産科学科

動物科学・水産科学科は、農学領域において畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに、野生動物、展示動物、実験動物および海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行うことにより、動物・水産資源の安定的な生産と供給、その高度利用に貢献する人材の養成を目的とする。